のぞいてみよう！せんだいの歴史　暮らし編　第1回

たばこ

仙台市博物館　学芸企画室　中武　敏彦

今月号からは、武家・庶民の暮らしや美術・工芸など、さまざまな視点から仙台の歴史をご紹介していきます。

政宗愛用の煙管（きせる）

近年は職場での「一服」もままならない世になりました。もちろんこの一服とはお茶ではなく、たばこのことです。

たばこは一六世紀後半、スペインやポルトガルとの交易で日本に渡来し、江戸時代には喫煙の風習も広まりました。

初代仙台藩主の伊達政宗も愛煙家として知られています。政宗の小姓を務めた木村宇右衛門の「覚書」には、政宗が起床後に寝床で髪を結わせながら一回、朝夕の食事後に各一回、就寝前に寝床で一回と、一日四回の喫煙を習慣としていたこと、一回当たり三服から五服喫煙していたことが記されています。もちろん当時は紙巻きたばこではなく、煙管を使用し喫煙するのが一般的でした。政宗愛用の煙管と煙管箱は、政宗の死後に墓所である瑞鳳殿に納められました。

瑞鳳殿発掘資料の煙管　仙台市博物館蔵

たばこの製造と販売

たばこは仙台藩領内の各地で生産されましたが、たばこを仕入れて販売できるのは、南材木町の商人に当初は限られていました。このように、藩が特定の町に特定の商品を販売できる権利を与えることを、「一町株（いっちょうかぶ）」と呼びます。しかし幕末期になると、財政難からたばこは藩の専売制となりました。

明治時代にいったんはたばこの自由製造・販売が認められましたが、明治三七年（一九〇四）に国の専売制となりました。折しも日本は日露戦争の最中で、たばこは戦費調達の財源とされたのです。

たばこが国の専売制となると、仙台商業会議所はたばこ製造所の誘致を運動しました。その結果、明治三八年に仙台煙草製造所が肴町に設置されます。製造所は大正二年（一九一三）、清水小路に移転し仙台専売支局工場となりました。当時の従業員数は七〇〇人を超え、仙台市内で最大の工場でした。清水小路の工場は仙台空襲で焼失し、戦後は原町小田原（苦竹）に工場が再建されました。

宣伝ツールとしてのたばこ

大正時代の半ばから、仙台工場で生産されるたばこは、煙管用の刻みたばこから紙巻きたばこが主流となります。小箱に梱包（こんぽう）され、ポケットに収まる紙巻きたばこは急速に普及し、仙台工場では大正末期に刻みたばこの生産を終了しました。

人々が箱入りたばこを手軽に携帯するようになると、箱にカードを入れて商品を宣伝する手法がはやりました。仙台市でも昭和一〇年代、この方法を取り入れた観光キャンペーンを行っています。カードの表は伊達政宗騎馬像と眼下に広がる「杜の都」の風景写真、裏は県内の名勝地を紹介するもので、このカードを入れたたばこは、関東から西の地方で販売されました。

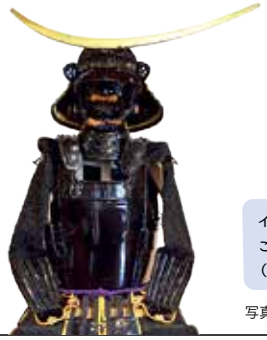
宣伝手段が少なかった当時、身近な嗜（し）好品であるたばこは宣伝ツールとしても活用されていたのです。

仙台地方専売局　『秋保石材軌道(株)』より

仙台市博物館紹介展示

伊達政宗と仙台の歴史

伊達政宗所用の黒漆五枚胴具足（レプリカ）を展示します。あわせて、仙台市博物館の代表的な資料や博物館の活動などをパネルで紹介します。



場　所：仙台国際センター
会議棟　1階正面エントランスホール
観覧料：無料
期　間：令和4年4月1日～令和5年3月31日（予定）
時　間：9時00分～21時30分
＊休館日は仙台国際センターの休館日に準じます

イベントなどの最新情報は博物館ホームページでご案内しています。
（QRコードからアクセスできます）

写真：黒漆五枚胴具足 伊達政宗所用（レプリカ）部分

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM
▶博物館ホームページ　仙台市博物館　検索
▶博物館ツイッター　@sendai_shihaku
▶お問い合わせ　〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
TEL：022-225-3074　8:30-17:15　※土・日・祝休日を除く
※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。